

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/2階)

事業所番号	2773301797		
法人名	医療法人 山紀会		
事業所名	医療法人 山紀会 グループホーム華		
所在地	大阪市西成区千本南1丁目23番28号		
自己評価作成日	令和3年5月27日	評価結果市町村受理日	令和3年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今、現在のコロナ禍において、今まで出来ていた外出や面会等の日常が大きく変わっていく中、ホーム内で出来る事を、職員で考え、体操やおやつレク等に力を入れ、又、感染防止の為の消毒や、広報誌等でご家族にご利用者様の現状やホームの取り組みを伝え、少しでも安心して頂けるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の一つに「私たちは利用者ができる限りグループホームで過ごせるように努力します」とあり、その実践のため、ひとり一人が役割を果たして生きがいを持ち、機能が低下しないような支援を心がけている。コロナ禍で外出も規制されている中、少人数で感染に気を付けて近所の散歩を日常的に行っている。5階建ての建物の1階は同法人の通所、訪問介護事業所で「やまき介護ステーション」として協力し合って一体的な運営がなされている。2、3階はグループホームで4階、5階には法人内介護施設で働く外国人が20人ほど住んでおり、災害時など有事の際には力になってもらえそうで、ほかにはない利点である。地域医療を担う大きな病院が母体なのも、利用者、家族、職員みなさんの安心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は少しでもホームで過ごせるように、ご自身で出来る事をしてもらいながら、一緒に生活している	・「利用者の尊厳を守りその自立を支援する。・明るい家庭的なグループホーム・地域に開かれたグループホーム・でき得る限り利用者がグループホームで過ごせるように」という内容の理念でパンフレットと運営推進会議録に記載している。いつでも目に触れるようにフロア内に貼り出しつねに意識できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に入会し、出来る限り、地域の行事などには参加し、地域に根差したホームとなるように心掛けている	町会には事業所として加入しているほか個人で加入している人もおり敬老の日のプレゼントが届いている。目の前に公園があり町会長が公園の管理に参画している関係で毎月の公園清掃に事業所として利用者も一緒に参加し地域の情報を得ている。コロナ以前は町会の総会に管理者が出席してグループホームの紹介をしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、地域の方や民生委員の方と色々な情報交換を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍で、会議を開くことが出来ていないが、書面にて報告や、公園掃除等の町会の行事等で話したりしている	2020年3月までは地域包括支援センター、町会長の参加をえて開催してしていたが、それ以降は書面開催となっている。議事録は地域包括支援センターと町会に送付し、フロア玄関にファイルして置いている。家族の参加がなくメンバーが少ない点が前回調査の課題となっていたが、コロナ禍のために達成されなかった。	玄関に設置した議事録はコロナ禍でお属の目に触れる機会がないので、家族に議事録を送り会議の内容の周知を望む。固定化している参加者を増やすこと(民生委員、知見を有する人)にも努めることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所のケースワーカーにご入居者様の事で相談等を行っている	区保健福祉課生活支援係とは連携の機会は多く、訪問もある。大阪市には事故報告書を送るほかコロナ関連で連絡メールが時々あり、マスクや消毒薬をもらったり、職員が無料検査を受けたりした。消防署とは避難訓練のことで、警察とは行方不明者のことで協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針をフロアに掲示し、玄関のドアはカギをかけず、身体拘束をしない環境づくりを心掛けている	身体拘束適正化委員会は訪問介護・通所介護と合同でやまきステーション会議の時に開催している。職員研修はグループホーム会議の時に研修しており記録に残している。居室内にトイレがあるので、事故防止のため家族の同意をとって、センサーを使っている人が半数くらいいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いなどを含め、虐待に繋がるような事がないように職員間でも報告・注意している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人やあんしんさぼーと等の制度を利用しながら、職員にも理解を深めてもらっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や介護保険制度の改定があった時など、その都度説明をし理解頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等でご家族と話す機会を作り、その都度、ご意見等を伺い、反映させるように務めている	家族は届け物のために事業所に来る機会があり、希望があれば利用者との面会も外(公園など)でもしてもらっている。季節の行事や日常生活を写した写真を多用した便りを季刊で作成し送っている。リハビリを希望する人に通院に結び付けたり、相談事に応じている。家族満足度は高く、要望があれば出来る限り対応する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われているGH会議時や、適時、職員からの提案や意見を聞き、反映させるように努めている	グループホーム会議はケアカンファレンスを兼ねて月1回開催、出られない人には前もって意見を聞き、議事録は貼り出して内容を周知している。やまき介護ステーションとしての会議も月1回あり、事故・感染防止・レクリエーション・食事・広報など5つの委員会があり運営に参加している。年2回は管理者との面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与毎に自己評価・上司評価を行い、目標なども定め、各自の向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は、コロナ禍で、外部の研修には殆どいけていないが、今後は出来る限り、外部の研修に参加出来るようにしていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、コロナ禍で殆ど交流を持っていないが、今後の状況に応じて、交流会等に参加していきたい		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、事前に面会や要望を聞く機会を作り、見学にも来て頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご本人様との面会や要望を聞く際、また見学時等に同席頂き、一緒に話を聞いたりしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの生活で何に重点をおいて、生活して頂くかを聞いた上で対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご入居様という関係性を保ちつつ、一緒に生活している家族という意識を持って、日々を過ごす様に心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活を出来る限り報告し、今後の事なども相談し、ご入居者様を支えていけるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍で、あまり外出出来ていないが、馴染みの床屋や店などに出かけたり、以前通われていたデイなどに行ったりし、関係が途切れない様になっている	今は近くの馴染みの商店への買い物もできないが、職員を介して商店の人と話のやり取りがあったり、以前通っていたデイサービスの職員と出会って昔の話をしたりなど日常の触れ合いを大切に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士が交流したり、共同で何か作業などが出来るように職員が仲介し、関わるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去された方のご家族様等には、何かあればご相談頂くようにお伝えし、相談等があった際には対応・支援させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話等で、ご入居様の希望や意向を聞き取り、出来る限り、対応できる様に努めている	入居者とは個室担当制なので、会話を通して意向の把握は比較的容易である。長く一人暮らしだった人には、飲酒や偏食など生活上の困難を抱えている例もあり、ひとり一人の思いや意向を確認しながら、よい方向に向かうような支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面会時やご入居されてからの関りで聞き取り、把握・反映に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の状態を申し送りや職員同士で情報交換・共有し、会議等でも話し合う様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での情報共有に加え、御家族・主治医等からも意見を頂き、計画作成に反映させている	毎月のケアカンファレンスで職員の意見を聞いて介護内容を検討している。長期目標6か月、短期目標3か月を設定し、3か月ごとに更新して同意とサインをもらっている。家族のいない人も多いので、「自分の名前を書くことができる」ということを大事にして書ける人には説明と共に本人に署名捺印してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過や評価等を考慮し、計画作成の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの希望があれば、近隣の病院に通ったり、毛染めを希望されたら、ホームで染めたり、美容院へ通ったりとその都度、対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園の花壇の世話をデイサービスの方と一緒にさせてもらったりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居される以前に見て頂いていたかかりつけ医の往診や受診が継続出来るように支援している	入居時に家族・本人と話し合い、6名が法人の病院の内科医を主治医とし月2回の訪問診療を受けている。9名は従来のかかりつけ医を継続し訪問診療や家族同行で受診している。他科については数名が皮膚科、歯科は週1回希望者対象に訪問診療で来ている。緊急時はグループの病院へ直通電話で連絡でき相談や緊急搬送が可能であり、家族・本人も安心の万全な医療体制である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、外部の訪問看護ステーションの訪問を受け、状態確認や異常の早期発見、情報共有に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	適時、病院の相談員や看護師に連絡し、現状や早期退院に繋がるように情報共有に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針などの説明や方針についての書面にサインを頂き、また状態に変化があった場合等は都度相談させて頂いている	主治医が終末期と判断した段階で家族・本人の意向を再確認している。医療法人グループということで、家族もホーム内での看取りを特に望まないため現在まで看取り経験はない。今後については希望があれば当ホームでの看取りをいつでも受け入れられる様、万全の支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや研修にて、適時、確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や非常時のマニュアルなどを策定し、対応している	コロナ禍もあり消防署の立ち会いは無いが規定通り年2回の避難訓練は行っている。最新のハザードマップにより水害対策のマニュアルも今回追加し作成しており、ビルの屋上や5階への垂直避難訓練も検討している。町会長からの申し入れのあった「地域の一時避難場所」については受け入れを了承している。	ビルの4階と5階は20名の介護技能実習生の寮であるが現時点ではホームとの交流は殆どない。介護職をめざす若者達がホームの上層部に多数起居している利点を有効に活かし 非常時の戦力になって貰う様、避難訓練への参加を求め等、積極的な働きかけを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の権利を守るという掲示をしたり、適時、会議等でも議題として挙げ、確認している	利用者の誇りやプライバシーを尊重するため会議や年間計画の中での接遇研修を行い、全体での意識向上に努めている。入室時のノックと声かけや馴れなれしい言動を慎むなどに留意している。カルテなどの個人ファイルは鍵のついた書庫に適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、ご入居者様の意思や希望を尊重出来る様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、時間で決めるのではなく、その時々状況やご入居者様の希望に沿って対応するように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液の希望される方には使ってもらったり、髭剃りなども入浴時にしてもらったり、衣服も以前来ていたものを持ってきてもらったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成する際に、希望を聞いたり、調理やおやつレク等と一緒に作ったりしている	週4日は業者から届くすべて昼・夕分の冷凍の惣菜を湯煎して提供している。毎朝食と日曜日を含めた週3日の昼・夕は職員が献立から食材の買い出しまで担当し利用者と共に手作りしている。現在は利用者との買い出しは控えている。季節ごとにお彼岸のおはぎ・三色団子や誕生日のケーキをみんなで手作りしたり敬老の日には仕出し弁当を取り寄せるなど食を楽しむ工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎食毎にチェックし、その方に応じて、キザミやミキサーなども使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに加え、歯科医からの口腔ケアについて、指導や指示を頂いて対応している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンシートの活用や会議等で、適時、排泄についての見直しや支援について共有している	各居室にはトイレがあり、好きな時間に自分専用のトイレを使用出来るというメリットがあるが、近年トイレの場所がわからなくなったり転倒の危険性のある利用者も増えてきており、対策として家族の了解を得てトイレ内外に移動式の赤外線センサーをおいている。職員が即座に確認に行き誘導したり排泄物の観察や後始末が出来る体制をとっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示のもと、下剤の調整を行い、又、飲むヨーグルトを飲んで頂いたり、腹部マッサージなども適時行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状況や、希望に応じて入浴して頂き、入浴剤の使用やゆず湯等の時期に合わせた入浴もお行っている	普段は入浴剤を使い季節湯(ゆず湯・菖蒲湯)もとりにいれている。お湯はその都度替えている。機械浴がないため浴槽をまたげない利用者は主にシャワー浴とし、男性スタッフの担当時には2人介助で湯船につかって貰えるよう支援をしている。コロナ禍が落ち着けば以前のように希望者に近くの銭湯での入浴を楽しんでもらう等を企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前に足浴を行ったり、塗り絵等をしてたりして、落ち着いて入眠できる様に取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服表をファイルを作成し、閲覧できるようにし、排泄関する事や頓服の内服時はカルテにも記載している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が、より充実したホームでの生活が過ごせるように、散歩や日々の役割などを持てるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍で外出が出来ていないが、母の日や父の日、誕生日等には外食や遠方への外出を行っていた	以前のような車を使った遠出の外出は休止しているが目の前に公園があるため日常的な散歩や外気浴は出来ており特に閉塞感はない。公園の花壇の水やり(日曜日のみ)を任されているのも楽しみの一つである。「コロナ収束後はどこに行きたい？何をしたい？」などの希望や思いを具体的に聞きとり、家族や職員からの情報と共に記録し将来の「遠出の外出再開」に備えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、あんしんさぼーとや後見人・ご家族に協力を頂きながら、小口現金については、全員ではないが、ご本人でも管理して頂き、日々、必要なものや希望するもの等は適時購入したり、して頂いたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や知人に電話をかけて頂いたり、かかってきた電話を繋いだり、ご兄弟からのお手紙をお渡ししたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	余暇時間に職員と一緒に作った製作物を飾ったり、歌を流したりして居心地の良い空間づくりに努めている	共用部分の壁には季節感のある手作りのポスターや写真を貼っている。家族的な雰囲気の中全員が自分の出来る事(洗濯物畳み・調理作業等)に参加し和気藹々と過ごしている。新聞を読む利用者が多くゲームをしたりと思いおもいに寛いでいる。窓を開放し、換気には十分注意している。利用者は朝の掃除機掛けやアルコール消毒にも積極的に参加している	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどと一緒に座って頂いたり、食事時以外は座る場所を決めず、その時々ですわってもらったりし、ご入居者様同士で過ごしやすいようにして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は出来る限り、自宅から持ってきていただいた物を置くようにしている	トイレ付居室には洗面所・クロゼットがあり夜間やトイレ使用時には鍵をかける利用者もいてプライバシーを確保出来ている。馴染みのタンスなどの愛用の家具類やテレビ・ラジオを持ち込み家族の写真や位牌を飾っている。整理整頓や清掃は利用者も一緒に行うが、トイレは朝に職員が排泄状況の観察を兼ね清掃を行い清潔に保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やフロアでの動線の確保や出来る限り、自身で出来る事は自身で行って頂けるような環境作りを行っている		